序章　課題と視角……1
第一節　一九六〇年代における冷戦構造の変容と日本外交　1
第二節　二つの秩序観と外交指導者の類型　9
一　「日米中」提携――「保守本流」と「アジアの連帯」　9
二　「日米中ソ」協調――「反吉田」の系譜と現実主義者　19
第一章　中国の孤立化への抵抗と挫折
――池田政権の対中外交　一九六〇―一九六四……31
第一節　中国問題への意欲　31
一　池田の「中国寄り」志向と外務省の冷戦観　31
二　国連と国際社会への中国の編入　41
第二節　中ソをめぐる日米の「逆走」　61
一　中ソ対立の「発見」　61
二　LT貿易の構築と西欧への説得　77
三　中国をめぐる日米摩擦――核開発、中印紛争、中ソ対立、日中接触　87

四　ビニロン・プラント輸出と米ソ・デタントの進展　100

第三節　米中対立の昂進と池田外交の破綻　129

一　吉田の「転向」と仏中国交樹立の波紋　129

二　対中外交への執着と「ベトナム」の逆風　141

第二章　米ソ協調への適応と葛藤
——佐藤政権前期の対中外交・一九六四—一九六八　163

第一節　対中外交における佐藤栄作の個性　163

一　吉田・池田との協力と対中積極姿勢　163

二　岸との距離と対中慎重論　170

三　「中国」から「沖縄」へ　179

第二節　米中対決と「日米ソ」連合の形成　194

一　佐藤外交の構築——対米協調の徹底　194

二　「中国包囲網」への参加——「日韓台」の協力と「日米ソ」の連合　210

三　日中接触と米中の「架け橋」　227

第三節　中国の孤立化をめぐる葛藤　251

一　「親中・反ソ」の吐露　251

二　佐藤外遊と中国の孤立化の是正　258

一　「ポスト後」と「文革後」の展望　267

## 第三章　米中接近と日本外交の選択
——佐藤・田中政権と日中国交正常化　一九六九―一九七二……277

### 第一節　「米中ソ三極」の浮上と佐藤政権の疎外　277

一　「中ソ再接近」か「米中接近」か　277

二　「日本軍国主義」「繊維」の誤算と「北方領土」の目論み　294

三　米中接近の「前震」の中の外交　303

### 第二節　米中接近と佐藤外交　319

一　外務省の慎重論と佐藤による対中傾斜　319

二　福田外交との不調和と田中政権への継承　320

### 第三節　日中国交正常化と「反ソ」の共鳴　354

一　田中角栄の「日米中の二等辺三角形」構想　354

二　日中接近と両超大国の当惑　358

三　田中訪中と対ソ外交——「覇権」と「特権または優越」　366

## 終章　「冷戦」と「アジア的秩序」……375

あとがき　381
主要参考文献
事項索引　6
人名索引　1